

古文書にみる
「丹波篠山の特産あれこれ」

「黎豆」は「黒大豆」のことなのか？

丹波篠山での黒大豆栽培を確実に示す最古の歴史史料は、江戸時代の料理本「料理綱目調味抄」^{りょうりもうちょうみしやう}です。これは享保15年(1730)に書かれています。

しかし、それよりも古い享保元年(1716)発行の「篠山封疆志」^{ささやまほうきょうし}*1)には「土産」が紹介され、そこには「黎豆(れいまいめ、くろまめ)」が登場します。

さて、これは現在の「黒大豆」のことなのか、はたまた別の豆なのか？謎解きをしてみましょう。

日本農業遺産認定
丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

さまざまなる史料をあたってみると、寛政12年(1800)発行の「成形圖説」^{せいけいずせつ}(18巻)が見つかりました。これは現在でいうイラスト付きの百科事典のようなものです。
ここには「黎豆レイドウ＝クズマメ」と書かれ、莢さやのイラストは全く違つものでした。当時、丹波篠山で本当に「黎豆」が作られていたのか、「黒大豆」を「黎豆」と見間違つたのか謎です。
したがって、いずれにしても「黎豆＝黒大豆と見なすことはどうも疑わしい」というのが現在の見解です。



(出典：国立国会図書館デジタルコレクション)

とてもロマンのあるエピソードですね。今後、新しい説や史料が発見されるかもしれません。「黎豆」に関する新しい情報がありましたら、お寄せください。次号もこうした歴史史料について語っていきます。ご期待ください！

*1) 篠山封疆志：江戸時代の享保年間に活躍した篠山藩の儒学者、松崎蘭谷まつざきらんこくによって篠山藩領内の古跡、寺社、名産などについて書かれた現在でいう郷土史のようなもの。